

会 議 録

第 1 2 回定例会

開会 令和3年9月22日

教育委員会会議録

1 開 会 令和3年9月22日 午後3時30分

2 閉 会 令和3年9月22日 午後5時5分

3 教育委員会出席者

教育長	榊 浩一
委 員	河口 雅子
委 員	菊池 健次
委 員	島 隆寛
委 員	三木 千佳子
委 員	河野 暁

4 教育長及び委員以外の出席者

教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
教 育 創 生 課 長	重田 英紀
教 職 員 課 長	今田 潤
学 校 教 育 課 長	木屋村 浩章
体育学校安全課全国高校総体推進室長	小笠 直人
教 育 政 策 課 長	高崎 美穂
教 育 政 策 課 副 課 長	高木 和久

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 報告事項3を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項6 令和4年度全国高等学校総合体育大会の準備状況について》

教育長 報告を求める。

全国高校総体推進室長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

河口委員：インターハイは競技の成績も大事だが、全国から本県を訪れる選手、観客への「おもてなし」も重要である。幹事県として総合開会式も開催されるとのことなので、高校生による素晴らしい式典を期待している。11月に開催されるカウントダウンイベントは、教育の日の週間にかかるのか。

全国高校総体推進室長：そうである。

河野委員：会場地市町の中で北島町、板野町は実行委員会の設立がまだのようであるが、それぞれいつ設立される予定なのか。

全国高校総体推進室長：具体的には未定であるが、設立に向けて組織の範囲等を検討していると聞いている。

河野委員：来年の大会に向けた準備作業もあると思うので、できるだけ早く起ち上げてもらいたい。

《報告事項1 令和3年度とくしま教育の日（教育週間）実施事業について》

教育長 報告を求める。

教育政策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

菊池委員：毎年、この時期に「とくしま教育の日」に関する事業を開催されているが、「とくしま教育の日」について、私は教育委員となってから、この時期に始まることを認識するようになった。例えば、交通安全週間の始まりには、のぼりを持った人が道路沿いに立って、視覚に訴えるなどしており、分かりやすい。「とくしま教育の日」も、もう少し広く伝えられる方法がないものかと感じる。

教育政策課長：「とくしま教育の日」というものが、どれくらいの県民の皆様にも知ってもらっているのかというところがある。のぼりを使った広報は行っていないが、SNS等による広報等、新たな取組は行ってきた。「とくしま教育の日」に関する事業については、学校の保護者を対象としたもの、地域住民を対象としたもの、一般の方を対象としたものなど様々行っているのだから、これらを知ってもらえるように、あらゆる手段を講じて広報活動を行っていききたい。

《報告事項4 学校運営協議会の設置及び委員の任命について（令和3年8月分）》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：学校運営協議会の取組を一般の人にも広く知っていただくことが重要である。QRコードから各学校ホームページにつながるようにするなど、より広く周知できる方法を考えてほしい。

学校教育課長：年度末に行う学校評価も含めて、保護者や一般の人に広く周知する必要がある、広報をしっかりと行うことは大切だと考えている。今後も改善していききたい。

河口委員：学校運営協議会は、現在どのくらい導入されているのか。

学校教育課長：今年度末には、小中学校及び県立学校の62%で導入の予定であり、

令和4年度には小中学校及び県立学校合わせて240校の導入を目指している。所管する県立学校については、今年度末で30校が導入を予定しており、令和4年当初には全ての県立学校で導入される予定である。

河口委員：11月上旬に研修会を開催するということだが、今後導入する学校にとって、参考になるような取組を紹介するなど、充実したものにしてほしい。

学校教育課長：学校運営協議会の内容の充実を図ることができるような研修会としたい。

《報告事項5 令和3年3月県内高等学校卒業生の進路状況について》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：非常に興味深い資料と思う。徳島大学にもCOC+等で県内に残ってくれる人を増やそうとしている方もいるし、NTT西日本は地域貢献活動で目的が近いので、そういった企業等に情報共有したい。高校生がなぜ就職先として県外を選ぶのかということを知り、この資料でのポイントを知っておくと取組に生かせるのではないか。情報が共有できたら、より効果的ではないか。

学校教育課長：受け止めの話になるが、卒業生数つまり子どもの数が減っている中で、就職や大学進学において地元で定着する徳島を担う人材を育成していくことが大事だと感じている。特に、高校から卒業して徳島で働いてくれる、又は大学卒業後また戻ってきて徳島で働いてくれるなどいろいろなケースがあると思うが、まずは直接働きかけられるところとして、高校生に徳島の企業の魅力を知ってもらうため、今年度新たに、7月の求人票開始のタイミングで、高校生の県内就職を応援する「とく活」という名称の就職応援サイトを立ち上げて、そのサイトで県内企業を紹介しており、毎月トピック的に会社の情報等を社長や社員から語ってもらっている。これは、商工労働部とも連携して実施している。このような、生徒が県内に多くある優良な企業を知ってもらうような仕掛けを工夫して取り組んでいる。

河口委員：女子の進学率が上がっていること、専門高校から大学進学を目指して、よ

り高度な知識を学びたいという進学志向が高まっているという説明があったが、良いことだと思う。そういった「学びの意欲」を持って、また大学卒業後に徳島で就職してくれることが一番良いケースだと思う。今、大学の方でも総合型選抜を行っているが、自分の進路を見据えて受けに来ていることが伺える。これは、高校でのキャリア教育が基盤になり、自分の将来を描くことができているということであり、より高度な学びを求め、進学志向に繋がっているのではないかと思う。

学校教育課長：補足になるが、専門高校の大学進学については、男子の大学進学数が増加していることはもとより、女子の大学進学数も増加している。少子化や進学志向の高まり、また、大学の入学者選抜方法も専門高校の枠での募集があり、各生徒の長所を生かせるように大学も工夫をしてくれている。このような状況が影響して、大学進学率の上昇に繋がっているのではないかと考えている。

三木委員：男子より女子の大学進学率が増えているのはなぜか。もう少し具体的な理由はあるか。

学校教育課長：専門高校からの女子の大学進学数が増加したことに加え、短期大学の枠も少なくなってきたおり、4年制大学に進む生徒が増えてきていることが要因と考えられる。

《報告事項2 第3回徳島県公立高等学校入学者選抜方法改善検討委員会の概要について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

三木委員：指定競技と指定競技以外の違いは何か。

教育創生課長：指定競技というのは、県教育委員会が強化を図るべき種目・学校を指定して募集をする。指定競技以外は、学校の特色・魅力化を進めるために、募集する種目・分野を各学校が決めることができる。ただし、普通科は募集定員の6%以内、普通科以外は13%以内での募集となる。

河口委員：文化・ポリシー分野で募集ができるようになるのか。

教育創生課長：特色選抜で文化分野の募集が少ないということもあるので、文化分野

で1分野以上募集をしてもらいたいという気持ちはあるが、スクール・ポリシーと文化分野での募集が重なる部分もあることと、学校によって部活動の数、規模、指導者の違いもあるので、文化・ポリシー分野で1分野以上募集をしたいという改善案である。

河口委員：各校のスクール・ポリシーを見るとかなり活動されている学校も多いと思う。これと文化とを組み合わせると募集をするというのは良いと思うので、是非この分野での募集を実践していただきたい。

教育創生課長：必ず募集をしてもらおうように進めていきたい。

河口委員：今なら、文化だけに募集が限られている。せっかくスクール・ポリシーを作ったのだから、スクール・ポリシーを含めた募集をしてもらいたい。

河野委員：個別面談については、指定校のみでなく、全て実施する方がスムーズだと思う。高校も面談が多く大変だとは思いますが、個別面談をすることで、生徒は高校の様子もよく分かるし、手間はかかるが、個人的には実施した方が良く思う。

教育創生課長：今回の個別面談の有無については、指定枠と一般枠で差別化を図るという意味で案を出させていただいた。改善検討委員会の中でも、今、河野委員のおっしゃったような御意見を頂いている。十分に参考にさせていただき、考えていく。

河野委員：一般枠の募集人数をレギュラーの半数程度までというのも、決定でなく、これからの検討ということか。

教育創生課長：それについても、いろいろな御意見を頂いているので、今後検討していきたい。

河野委員：ラグビーは15人集めるのが大変だという話を聞いたことがある。サッカーも11人以上集められる学校もあるかもしれないが、学校によって差はある。一般枠はレギュラー人数の半分程度を募集するというのは、強化の一つの手立てかもしれない。そうなれば、指定枠がもう少し増えても良いように感じる。結局、特色選抜で入れなかった生徒は県外の高校に進学してしまう可能性もあるので、人数確保をしていただければと思う。

《協議事項1 令和4年度徳島県立学校実習助手採用候補者選考審査要綱について》

教育長 説明を求める。
教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし。

教育長 協議事項 1 を議案第 3 5 号として付議してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 3 5 号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第 3 5 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《協議事項 2 令和 4 年度徳島県立特別支援学校寄宿舎指導員採用候補者選考審査要綱について》

教育長 説明を求める。
教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

菊池委員：寄宿舎生について、男女の性に応じた配慮をしているのか。

教職員課長：配慮が必要なところについては、性によって嫌な思いをしないように配慮している。

菊池委員：寄宿舎指導員には男女両方がいるという理解でよいか。

教職員課長：女性が多いが男性もいる。

島委員：先の教員採用審査で面接をしたが、質問内容を先回りして覚えている者がいた。面接での適格性や人間性の判定が難しいのではないかと思うが、より人物を見定めることが必要なのではないかと思う。

教職員課長：昨年の例では、採用 1 名に対して受審者が 4 名いた。4 人の面接官が少しでも良い方を採用するために対応した。限られた時間の中で質問して人物を見ていくということになるので、少しでも良い方・望ましい方を採用する、という審査で対応していきたい。

教育長：寄宿舎の役割が昔と変わってきた。昔は遠距離で通えない子どもたちのためのものであったが、今は社会的・職業的自立のために子どもたちにどのようなものを提供していくか、という教育的な側面も強くなってきたため、そのような知識を持った方というのを受審の条件に入れて審査をしている。また、子どもたちの生活の手伝いをするというのではなく、子どもたちの力をいかに伸ばしていくか、子どもたちの力をいかに引き出していくかという視点が大事

になってきている。

教育長 協議事項2を議案第36号として付議してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第36号を原案どおり決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第36号を原案どおり決定する旨を告げる。

[非公開]

《報告事項3 令和4年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査第2次審査の結果について》

《協議事項3 職員の処分について》（追加）

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午後5時5分